

おお大勝利

令和5年度 山東サッカー部報第5号 (5月31日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体 鶴岡東にPK合戦負け

5月27日(土) いよいよ県総体が置賜を開催地区として始まりました。山東は近年、主会期の前の週、5月最終週に行われる第1ラウンド(1・2回戦)をクリアできていない。クリアしたのは、6年前のハレルの代まで遡る。昨年も、1回戦東桜学館に勝利するも2回戦でシード校の米沢中央に敗れてしまった。さて、**今年、初戦はやはり！ 東桜学館。**連続して対戦する因縁ってあるんですよね～。ちなみに、鶴岡東とも対戦率が高い気がする。1・2回戦では同地区対決をなるべく避けるルールがあるため¹、村山地区のシード校の下山に入ることが少ないとはいえ、2回戦で羽黒や米沢中央に当たることは相対的に少なく感じる。ちなみに、東桜学館高校の二人の顧問は、奥様が山東の教員だったり、自身がOBだったり、子どもが山東サッカー部員だったりして、広い意味で「山東関係者」。その一人は、私も前任校と一緒にサッカー部顧問をしたこともある。もちろん、選手スタッフ共に、今年の借りを返すべく、燃えているに違いない。

会場は米沢市営人工芝サッカーフィールド(米沢 SF)。この日は気温が上がり、暑い。試合には、**岸後援会長**に加え、とうとう！ **後藤報道局長**が自粛明けたのか取材にいらっしやう。やはり役者が揃わないと、ドラマは進まない。試合が始まると、やはり東桜、球際強く来る。もっとつないでテクニカルに来るイメージがあったが、勝負にこだわってか、または、山東のDF、GKにシンプルに圧力をかける作戦か、ロングパスを多用するダイレクトな展開が目立つ。対する山東も、「最初はシンプルに」という打ち合わせを最後までやりきってしまう真面目さというかアイディアのなさ(アイディアを現実のものにする技術のなさ)があり、東桜以上にダイレクトな試合を行っている。東桜は、蹴れる選手いるし、ヘディングでしっかり跳ね返せる選手がそろっている。どっちが2部のチームか、わからない内容。前半、積極的に打った東桜のロングシュートが慌てて下がるGKの頭をバウンドして越えるシーンがあり、ベンチで「終わった」と観念しましたが、バウンドが大きくゴールバーを越え、事無きを得た。後半も、東桜のロングシュートに対して軌道を見極める前にふらふら前に移動したGKが慌てて後ろに下がり、パンチングで凌いで、あたかもファインプレーかのようなシーンを自作自演した場面があった。前後半の決定機では相手に上回られていたような気がする。ただし、至近距離での、とか、崩されての、などの決定機は許していないのかもしれない。対する山東の攻撃だが、全体に、「ここまでできなかつたっけ？」と呆れてしまう内容の悪さ。正直、難しい試合になることは覚悟して

¹ とはいえ、村山地区の出場校が多いので、村山地区に限っては、1回戦で対戦するのを避ける工夫しかできません。今年も、2回戦で、山形城北と山形南の同地区対決がありました。

いたが、故障していてなるべく試合に出したくなかった 2 年ケンヤを後半投入しなければいけない事態に追い込まれた山東。しかし、途中交代の、**2 年ケンヤ、アユム、1 年セースケ**が良い推進力となり、後半ようやく山東の攻める時間が長くなった。後半もスコアレスで延長戦突入。すると延長前半すぐに、セースケが抜け出し、左からセンターリング。するとそれを、確か**2 年ソータ**あたりがさらに中にいる**2 年ショーゴ**へパス。すると、またそれをショーゴが右にドフリーでいたケンヤにパス。遠くてよくわからなかったのもあるが、ショーゴの段階シュートを打てるように見えたので、ベンチではその消極性に「バカ」と独り言を言っていると、**フリーのケンヤが余裕をもってそのボールを逆サイドのゴールネットに流し込み、山東の先制**。それを守り切って、山東の 1 対 0 の勝利。勝ちはしましたが、恐ろしく低いパフォーマンスで、危機感を覚えました。勝負の差を分けたのは紙一重で、ラッキーな形で失点をまぬがれたシーンも多々あった。東桜は勝負にこだわる手ごわいチームで、山東の勝利は幸運に恵まれただけに感じた。ただ、**その紙一重の差や幸運は何からもたらされたかと言えば、3 年サカイ、ヨシモトを中心とするメンバー外の選手の熱い応援と覚えてならない**。コロナ前ですと、地区大会だろうが、リーグ戦だろうが、メンバー外の選手が応援するのは当たり前だったが、応援のない期間を経してみると、その応援がとても貴重なもの、胸熱くさせてくれるものを感じられた。県総体を経て本当にチームが一つになるのを感じることができました。

さて、翌 28 日 (日) は**シード校の鶴岡東**。鶴東は言わずと知れた私学の雄だが、近年サッカー競技 (男子) では、優勝から遠ざかっている。しかし、このチームは県新人戦で 2 位となり、県リーグ 1 部 (Y1) でも上の争いをしており、今年の優勝候補の一角。どうみても、うちとは差があるし、1 回戦の出来を考えるとどんな試合になるか予想するだけで怖くなる²。監督として、システムや人選について、あれこれ迷い、米沢行き朝の車の中でもずっと迷い、1 年セースケを右 SH で先発させ、**1 年タケハル**を左 SH で、2 年ショーゴを FW で起用することにした。積極策ではあるが、押し込まれることを前提にした「9 人で守って 2 人で攻める」安全策でもある。試合が始まると、スキルに関して相手に一日の長があるが、山東も粘り強い球際で良く戦っている。DF、MF は色気を出さず (欲張らず)、ニアサイドへの攻撃でいいから FW を早めに使う作戦に徹している。山東のツートップは、スピードやパワー、スキルなどで、Y1 の相手に対しても何かやってくれそうな可能性を感じる。左サイド (山東右サイド) を中心に鋭く攻める鶴東に対して、CK を与えながらも CB 中心に粘り強く守っている。でも、その CK がヒヤヒヤの連続。**この日、時間を追うごとにシュートストップの安定感が増し、ナイスセーブを連発した 3 年 GK コースケ**だが、前半 CK の処理は前日に続き課題を感じさせるものだった。前半何とか凌いでいたが、終了間際、やはり右サイドで与えた CK から失点し、0 対 1 で折り返す。最少失点差は想定範囲内。突き放されず粘っていれば必ずチャンスはやってくる。後半も鶴東の攻勢が続くが、**山東の選手も前日の低調さはどこへ行ったのか、3 年ユーゲン、リューキラ**が的確に相手の攻撃を跳ね返している。経験的に言って、開き直ったときの山東生は強い。すると、左サイドで得たこの日初めての CK をファーサイドで**2 年 FW ソータ**が練習通りの滞空時間の長いヘディングから決め、同点とする。さあ、試合が面白くなってきました。

² 実際 Y1 と Y2 のチームによる 2 回戦の対戦で、競った試合をすることができたのは山東だけでした。それだけ、差があるのです。

耐えるところは耐えて、後半終了し、延長突入。鶴岡東からかなり攻められますが、この日、GKが当たっていただけでなく、**鶴東のシュートがなぜかゴールマウスを捉えない**。「完全に終わった」と観念した鶴東のスライディングシュートも、急激に上方向に飛び、ゴール至近距離にもかかわらずゴールバーの上を越える。「嘘でしょ、前日に引き続きこの大会ラッキーすぎる」と何やら良い巡り合わせを感じ始めた。延長後半は投入した **188cmFW1年リュウヤが入学以来ベストのパフォーマンス**で、チャンスを作り、最後まで鶴東を苦しめた。しかし、スコア1対1のまま、PK合戦へ突入。

そしてそのPK合戦は・・・山東もPKの練習はしていましたが、本番では1本も入らず。あまり見たことのないスコア、**PK合戦0対3で負け**。最後まで戦い抜きましたが、Y1チームを撃破する「波乱」を起こすことは今年もできませんでした。本当に残念。2試合目も応援に回ったメンバーの応援は素晴らしく、**得点者が真っ先に応援メンバーに駆け寄って喜ぶシーンは、本当に美しいものでした**（イエローカードをもらわないかハラハラしてましたが）。応援への感謝として挨拶に行くと、応援の部員はさらに追加の応援をしてくれ、それを負けたばかりの選手たちが涙ながらに肩を組み、上下に跳ねながら、応援の部員とともに応援歌を堪能していました。**勝ったチームかのような光景でしたが、それだけ選手は「やりきった」という清々しい思いを懐き、応援の部員は「よく頑張ってくれた」と胸熱くしたのだと思いました。**

多くの保護者、保護者 OBOG の皆様、応援ありがとうございました。差し入れも大好評でした。

矢野教頭先生も応援にいらっしゃってくださいました。改めまして、ありがとうございました。

また、大学1年の代の OBOG も数多く応援に駆けつけてくれました。その代の主将で**一人浪人生活を送るジャッカルことソーゴ**がこんなメッセージをくれました。

「お疲れ様でした。

あの試合の興奮の余韻と、一種の喪失感で形容しがたい感情のこの数日だと思います。

正直ヤマト達の [学年の] 印象は変人軍団。・・・でもそんな心配をよそに、選手権の米中、そして今回と、毎回またひとつ頼もしくかつこい姿を見せてくれました。

最後に涙を浮かべて整列するみんなを見ながら、入ったばかりの幼かったあの頃を思い出すと我々も涙を堪えるのに精一杯でした。

ほんとに勇気もらいました。

毎回言いますが、行ってよかったです！

ありがとうございました！」

さて、多くの進学校の3年生はこれでいったん一区切りとなりますが、山東サッカー部では、2回総当たり制の県リーグ戦が1巡するまで引退せず、最後まで成長を目指しながら、部活を続ける伝統があります。具体的には、今年は、**7月1日(土)の酒田東戦が、リーグ戦1戦目(一巡終了)**となります。今回応援に回った選手たちも、リーグ戦での出場を目指し、大いに部活をしてもらいたいと思います。

次戦は、今週末の県総体主会期を挟んだ翌週末となります。再び、ヤマトの代のチームへの応援よろしくお願いします。

6月11日(日) Y2B⑤ 酒田南戦 12:00～(7:50 学校集合) @酒田市飯森山